

乳癌(癌)について

2021. 4. 9

最 終 版

肥塚 栄一郎

目次

I 乳癌とはどんなもの

1 明代(1368~1644) 陳実効著 『外科正宗』より

II 乳癌最新情報2015

1 “乳癌”は多いの？

2 “乳癌”の原因は？

3 “乳癌”の検診

① 定期健診

② 自己検診

4 “乳癌”の治療

III 癌とがんもどき

IV がん細胞の分裂とダブリングタイム

V 乳がんの劇的な寛解例(栄ちゃんの経験談)

VI 鍼灸治療の例から

VII がんが自然に治る生き方

VIII 最後にヒポクラテスさまの登場

IX 小西さんのチェックに答えて

I 乳癌とはどんなもの

「はじめは豆粒ぐらいだが、次第に基石大になり、半年、1年、2年、3年と経っても痛みも痒みもない。しばらくして大きくなり、はじめて痛みが出てくるが、その痛みは緩解されることはない。日が経つにつれ栗のようになって盛り上がるか、あるいは中に隠れてしまうものもある。薄汚れた紫色を呈し、次第に潰瘍状態になる。深いものは岩穴のようで、飛び出しているものは水に浮かぶ蓮の花のようになり、痛みは心底に達し出血して臭い。そうなれば五臓はすべて衰弱し手の施しようがない。こうなったら百人中百人が死ぬ」

明代(1368~1644)の陳実効著『外科正宗』より

II 乳癌最新情報2015

1 “乳癌”は多いの？

日本の女性が罹患する癌の第1位は”乳がん”で 成人女性の12人にひとりです

その割合は女性の癌全体の19.0%です

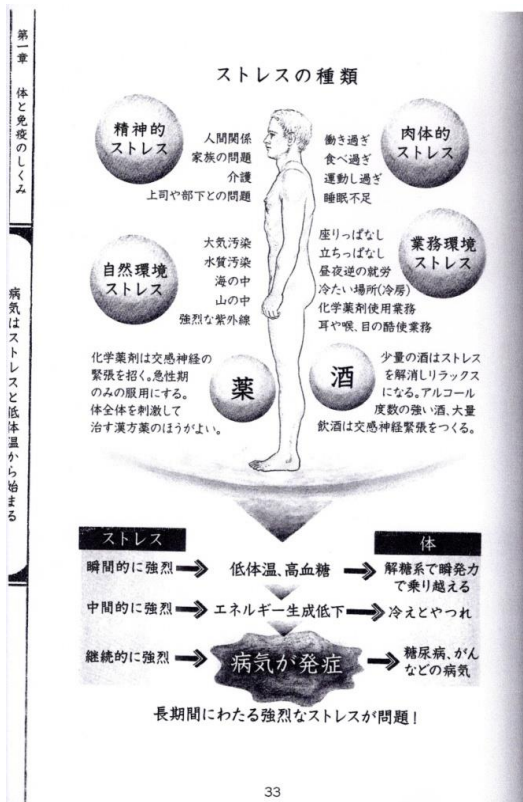
罹患の年齢が40代・50代と若いのが特徴です

癌死亡率は
全体では人口10万人当たり 約226.0人であるのに対し
乳がんでは 19.4人と死亡率が低い

2 “乳癌”の原因は？

① 初潮年齢が早い から始まって 色いろ指摘されている エストロゲン云々もあるが
すべて省略(関心のある方はご自分で調べ下さい)

② ストレス



* 体にはエネルギーをつくりだす二つのシステムがあります

一つは 酸素を必要としないで糖質から瞬発力を産み出す解糖系です
もう一つは 酸素をとり入れて持久力を産み出すミトコンドリア系です

* 低体温 低酸素 高血糖の体質をつくと解糖系が優位になり 癌になりやすくなる

* 自律神経がバランスよく働いて 血行がよければ癌になりにくくなる

無理をして過酷な生き方を続けたり恐怖にさらされたりすると 交感神経が緊張状態になります
 すると 体はステロイドやアドレナリンを分泌し血管が収縮し ミトコンドリアの機能を抑制して低
 体温 低酸素 高血糖の状態になります
 そうなると 20億年前の原核生物の性格があらわれて がん細胞になる反応を引き起こしてい
 きます がん化の始まりです

3 “乳癌”の検診

- ① 定期健診（略）
- ② 自己検診

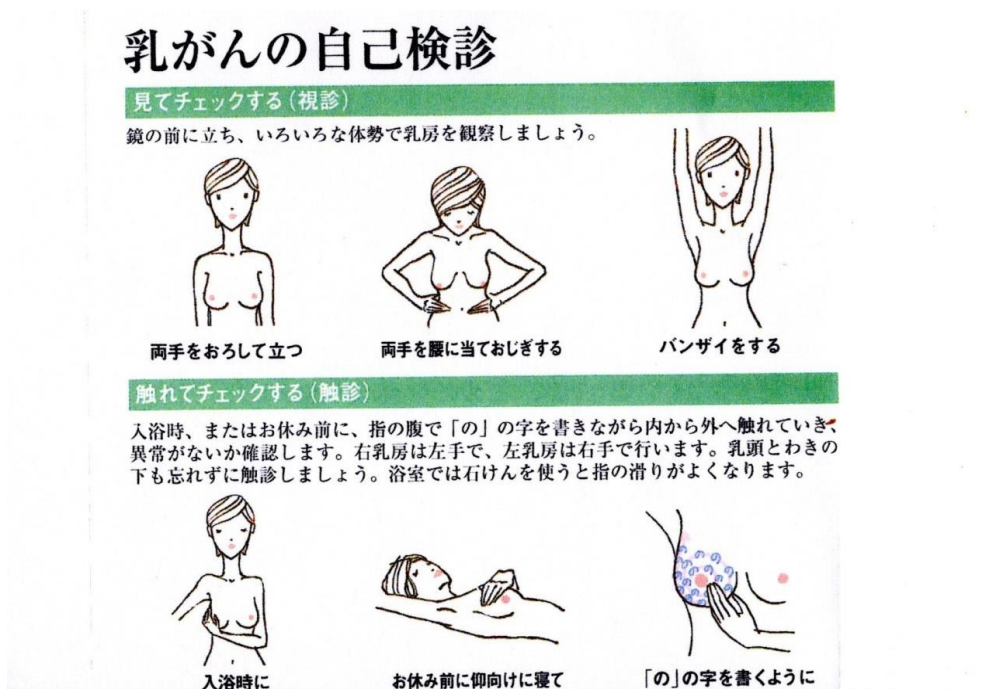
閉経前の方は 月経終了後4~5日目ぐらいの乳房の張ってない時期におこなう

閉経後の方は 毎月日にちを決めて一定間隔で行う

- a いままでにないものが触れる
- b つれる感じがあつたり 引きつれたり 芯があるようにかたいところがある
- c 乳頭から赤、茶、褐色、黒の分泌物がある

こういう所見を参考にして下さい

* 自己検診の仕方



4 “乳癌”の治療

- ① 乳がんの治療は手術療法、放射線療法、薬物療法を組み合わせで行いこの事を”集学的治療”といいます(以下 略)

- ② ”がん治療”をしない ”がんの放置治療” 近藤 誠 医師

子供を産まない年齢に達した女性は(一般的には)乳房の切除を選んでいるように思います。
 以下は「乳がん」に限った話ではなく、「癌」全般に関わる記述であり、本講義の枠を超える記述だと思
 います。(小西氏記入 以下赤字で書かれたものは、すべて小西氏による)

私は慶応大学病院の外来で 23年以上にわたり「がん治療」をしない患者さんを診てきた その人数は150人以上に及ぶ
電話で「早期の膝がんで余命三ヶ月と言われました」と緊迫した声で訴える人もいて 余命の問い合わせは多い
しかし 私のところへ初診で歩いてみえ 三ヶ月どころか一年以内に逝かれたケースはない
がんであっても 今普通に歩くことができ無症状であれば ひと半年や一年では死なないものだ

私はこの20年以上 言い続けてきた
「抗がん剤は効かない」
「がんは切らずに治る」
「検診は百害あって一利なし」
「がんは原則放置していたほうがいい」

がんが増大し あるいは苦痛等の症状が出てきたら その時点で治療をするかどうか どういう治療にするかを相談する

* これには「本物のがん」と「がんもどき」があることと 「がんの一生とダブリングタイム」の考察があることを理解してほしい

③ 「免疫力で治す」と腹を決めて取り組む

安保 徹 新潟大学名誉教授の ”がんを治すための4カ条”

- a ストレスから脱却する
- b 積極的に体を温める
- c 深呼吸をする
- d 腹八分を心がけ 甘いものを控える

④ その他 ゲルソン療法 ロイヤルゼリー・アガリクスの多飲 テルミーの援用等々多数あり
なぜテルミーが有効なのかを説明してくれませんか？ 俵山温泉の湯治が胃腸とか、膝・腰治療に有効なのは多くの人に認知されています。テルミーは多くの人に「無名な」治療法ですから。
よろしく願います。

III 癌とがんもどき

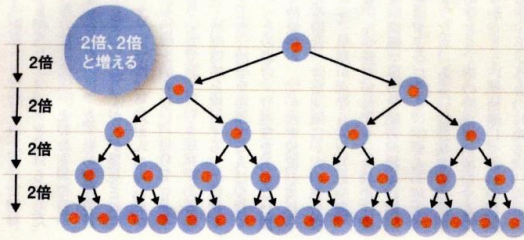
- 1 癌とがんもどきは「有害ながん」と「無害ながん」といえる
- 2 がんは転移する がんもどきは他臓器に転移しない
- 3 本物の初発がんは発見のはるか前から転移をしている
- 4 一センチの癌が見つかったときに「早期がん」の発見というが 癌にとっては早期ではない
- 5 癌にも「がん幹細胞」がある 癌はすべて最初の一個のがん幹細胞の性質を受け継いでいる そして 幹細胞が「転移する能力」を備えているものだけが 本物の癌である

IV がん細胞の分裂とダブリングタイム

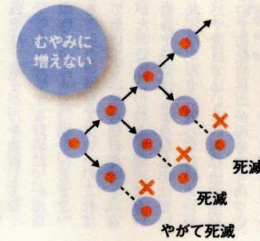
- 1 それではがんが一センチになるまでには どれ(何年)ぐらいかかるのか
(次ページの図を参照ください)

「がん」解明、9つの真実

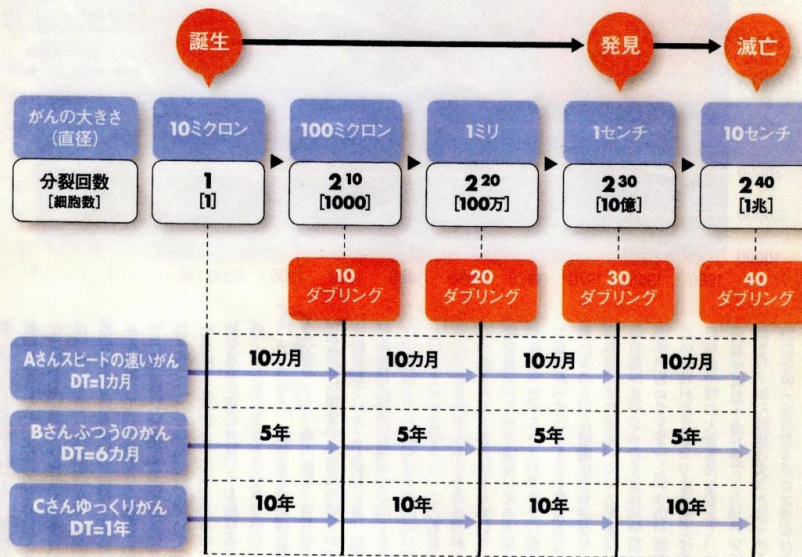
がん細胞の分裂



正常細胞の分裂



がんの一生とダブリングタイム (DT)



* ダブリングタイムが1年の場合 1センチになるまでに30年を要している
 74歳の〇〇氏が いま1センチの癌に気付いたとしたら 5年や10年は何とか生存可能と思われる 嘘かほんとか いかがなものでしょうか
 酒債尋常行処有 人生七十古来稀

* いまだに癌を発症していない我々は たぶん「ゆっくり癌さん」であろうと思っています

V 乳がんの劇的な寛解例 これは「良性腫瘍＝乳がんもどき」ではなのでは？

乳がんと言える理由は？

症例 埼玉在住のR.Kさん 女性 75歳 2017年夏 ブラジャーが黒くなっているのに気がついたが放置

2018年3月8日 左乳頭から黒い血液が出るので近くの病院に行く 乳がんの診断

医師より「ただちに手術」と勧められるが 家族に相談するといって帰宅

3月8日 同日に浸出液の検査を受ける

1週間後 浸出場所特定のため千葉大学病院へ行くように指示された

3月8日 肥塚 稔子に詳細の連絡あり

R.Kさんはテルミーの元会員で テルミーの経験者

連絡を受けて テルミーの線香と JRJ社のロイヤルゼリーアガリクスを送付

到着後直ちに 朝食後にテルミー線香(以後テルミー線)5本 就眠前に5本 毎日欠かさず
施術 以後9月末まで続ける

3月10日 ロイヤルゼリーアガリクス(以下アガリクス) 30粒摂取

3月11日 アガリクス30粒 **すごく大量の摂取ですね??**

3月12日 アガリクス20粒

3月13日 アガリクス10粒

テルミーとアガリクスは「特別によいとされている」

3月14日 アガリクス10粒

組み合わせ??それとも、偶然に2つを選んだ??

3月15日～同28日 アガリクス3粒

3月22日 PETの検査

3月29日 千葉医大より「乳がんのおそれあり 千葉癌センターに行くよう」指示

3月30日 アガリクス20粒

3月31日～9月30日 アガリクス3粒

4月 1日 花見「外に出て 人としゃべって気が晴れた」

4月 7日 倍賞千恵子さんのコンサートへ行く

4月12日 「今日も元気に 朝から掃除・洗濯 今アイロンがけで すべて終わり」

「6時半から いつもの飲み屋さんに行って おしゃべりしてきます」

との 連絡あり

4月14日 千葉癌センターで検査「腫瘍がある」といわれた 検査が長くて疲れる

4月16日 アガリクスを飲んで テルミーをしたあと 椅子に座ったままゴミを捨てたときに

いつもの違和感がなかった 首・肩・胸 ケガが治る時のような痒い感じがした

昨夜 眠っている間に スーツと何か感じた

痒い感じは止まっていた血流が流れ始めたから、ですね?

4月21日 癌センターで 生検 4月14日の検査結果のお知らせはなかった

5月23日 体温 35.5度

6月 8日 夜中に背中に違和感を覚える 夜中ではあたつが すぐにテルミーをする

6月 9日 乳首から黒い汁が出た

7月30日 入浴時 廃液が1滴になった

8月 5日 体温 36.1度 テルミーは胸から背中、腹部とかけている 便秘はない

8月15日 廃液はまだ出る 体温 36.1度 テルミーをするとホッとする

どこのテルミーをしたのか? 乳首? 乳房?

9月19日 再び生検 注射器が前回より細い 体温 36.1度

10月 1日 千葉医大で「乳腺炎」の診断
若い検査技師が「誰が癌と言ったんですか」と発声

10月 2日 ”けいちゃんの店”で乾杯！！
アガリクスはなくなり次第停止 テルミーは概ね毎日1回する決意

2019年～

3月 2日 胸が張った気がしたので絞ってみたら黒い汁が出た 体温 36.0度

5月 2日 体温35.9度 ホッカイロを仙骨にあてるのは？ OKサインをだす

5月 3日 体温36.3度

ホッカイロが効いたのか？？

10月25日 予後が気になってアガリクスを送る 飲み方は本人まかせにした

11月 3日 体温がはじめての36.6度「びっくりしたー」との連絡あり

体温の上昇できたことが健康を回復した主因なのかも？

12月21日 「体温は下がることがあっても35.9度以下にはならない」
「黒い汁が出るがあってもテルミーをすれば出なくなる」

* 大学病院から 癌の診断ではなく 乳腺炎の診断を戴けたことは うれしい限りです
大学病院は乳がんのおそれ、と言ったのであって、乳癌とは言ってないですね？

VI 鍼灸治療の例から

* 何かの参考、ヒントになるかも知れません お目通し下さい

症例 某女性、45歳、3年前に、左乳房内に硬いしこりを見つけた。次第に大きくなり、破れて、臭いのある薄い膿液が流れ出した。
ある総合病院で病理検査をしたところ「乳腺癌」であると診断された。
食欲はある、排便・排尿は正常。月経は正常。左腕が重い。

望診 痩せている・舌苔白・呼吸音は正常・左乳房の傷口は紫褐色をしており
分泌物があつて、悪臭がひどい。周囲の皮膚は硬くなり、同側の腋下リンパ節が1cm×1cmの大きさに腫大しており、触ると動く

脈象 沈細

弁証 肝鬱気滯・毒邪が溜まって結集した

治則 平肝化癥・温化熱毒

取穴 傷口および周囲の阿是穴(あぜけつ)

刺法 太い火針で、傷口内の破れたところを緩刺法で点刺する

経過 毎週2回、合計8回の火針治療で、傷口は癒合し周囲の腫脹も消失し、腋下リンパ節も縮小した。農村に戻って休養していた。
半年後に追跡調査をしたところ、再発しておらず、
すでに5年が経過しているが、体は健康である

* これは 現代中国を代表する鍼灸家の一人である ”賀 普仁”著の『鍼灸三通法』
東洋学術出版社 P.218の写しである

VII 癌が自然に治る生き方

- 1 抜本的に食事を変える
- 2 治療法は自分で決める
- 3 直感に従う
- 4 ハーブとサプリメントの力を借りる
- 5 抑圧された感覚を解き放つ
- 6 より前向きに生きる
- 7 周囲の人の支えを受け入れる
- 8 自分の魂と深くつながる
- 9 「どうしても生きたい理由」をもつ

*「がんの劇的な寛解」とは次のいずれかの事態が起きた状態を指します

- 1 医学の標準治療(手術、抗がん剤、放射線)を一切用いずに、がんが検知できなくなった場合
- 2 標準治療を受けたががんは寛解せず、代替医療に切り替えてから寛解に至った場合
- 3 統計的にみて余命が極めて短い(5年生存率で25%未満)がん患者が、現代医療と代替医療を併用したところ、統計を上回って生存している場合

余命宣告から「劇的な寛解」に至った人たちが実践している9つのこと

著者 ケリー・ターナー
出版社 株式会社プレジデント社
価格 1800円+税

* この項は上記出版物のご案内です

VIII 最後にヒポクラテスさまの登場

* 医学の祖 医術の父 といわれる ヒポクラテス(B.C.460～不詳)の警句集第7章87から

「薬で治せない病気も刃物で治せる 刃物で治せない病気も火で治せる 火でも治せない病気はお手上げだ」

火で治せる、という言葉は簡潔な良い言葉だと思いますが、テルミーの場合、皮膚から何ミリ・何センチの深さで、何度で何秒間当てるのでしょうか？
幹部が深いところにある場合、テルミーは有効ではないということ？

がん細胞は熱に弱いので、火や高温の温泉で繰り返し湯治すれば、がん細胞は死滅/弱るするとしても、テルミーの熱は深くへは浸透しないので、効果は？？？表皮癌だけ効果あり？

テルミーのような線香でなく、電熱で温度を自在にコントロールする治療機器を開発した方が効果的ではないのか？

IX 小西さんのチェックに答えて

1 乳がんの手術は 近年 温存療法が主流になっていると聞き及んでいますが如何でしょうか
加えて 周辺のリンパ節の大幅な郭清もしなくなってきたと聞き及んでいます

2 昭和4年2月19日 実用新案登録冷温器許可
昭和4年6月29日 原料特許番号許可
昭和6年4月 商標登録願い イトテルミン名許可
昭和5年1月22日 英、米、獨、佛、四ヶ國政府へ特許請願 後日許可

イトテルミーは 冷温器のなかに火をつけたテルミー線を挿入し 全身を摩擦または点擦等
する

施術時間は15分から20分を基本とする

局所の対応も可

施術により「自然治癒力」を惹起する

テルミーの刺激は視床下部に伝わり、自律神経のバランスを調整する

体表毛細血管の流れをよくし、リンパの流れもよくする

体表に当てられた熱は深部へ浸透する 熱の浸透過程で体内で様々な化学反応がおこる

熱せられた「テルミー線」からは波長の短い”近赤外線”が出る この波長により体内30センチ
以上に熱が伝わる

0.7~3 μ の近赤外線は非常に浸透力が強い

近赤外線 0.7~15 μ 中間赤外線 15~30 μ 遠赤外線 30~400 μ

開発者が苦心したのは いかに太陽の熱に近づけるかであった

日向ぼっこの後 日陰に入っても ただちに体が冷えることはない

太陽に手掌をかざすと 赤く太陽光が透けてくる これが近赤外線である

術者が優れてくると 42度Cの熱を入れることが出来る 癌は39.9度の熱で死滅する

ただしテルミーの本部は 病気を治すとは言わないし指導しない 現代医療に寄り添って

医療・治療の補助的役割を強調する

* 43度Cで死滅という説もあります

3 ロイヤルゼリーアガリクスは 癌に極めて有効であることは 30年の稔ちゃんの経験から

私は絶対の信頼をよせている

イトテルミーと様々な癌との付き合いを 私も経験しているし 会報にも沢山の事例が寄せら
れている

栄ちゃんと稔ちゃんは テルミーとロイヤルゼリーに軸足をおいて健康生活を目指しています

4 しもやけが治る時も 痒くなりますね 血流がスムーズになったのでしょ

5 R. K. さんはテルミーを胸、腹、背中(仙骨部を中心に)かけられていました

6 ホッカイロも有効だと思います

7 体温の上昇は免疫力を大幅に引き上げます 2005年に愛知医科大学の伊藤要子博士の
「からだを温めると増えるHSPが病気を必ず治す」という発表が大ブレイクしたことがあります
HSP→ヒートショックプロテイン

- 8 大学病院が癌と言ったか 怖れと言ったかは定かではありませんが 最初の病院で「直ちに切りましょう」と言われたのは事実です
- 9 ”電熱で温度を自在にコントロールできる治療機器”はすでに使用されています それなりに役にたっているようです
- 10 癌か ガンもどきか 正治先生(字に間違いがあればご免なさい)がお詳しいと思います
治療方法は 先生方によって異なるでしょう